

2014年 召命担当者の集い 参加者アンケート（修道女）

① 今回の「集い」を通して得るものがありましたか。

- ・若い人の考えを聞いたこと。
- ・溝部司教様の望洋庵の話は印象的で、示唆に富むものであった。中でも「祈りを大切にし、一人一人丁寧にわかっている」ことに感銘を受けた。
- ・召命を育てる為に大切なことを確認でき、一歩踏み出す元気を得た。（複数）
- ・今回の出会いを通して、超修道会、超教会で協力していく可能性と希望を頂いた。
- ・召命の土壌となるものの中に、女性の成熟、母性の成熟があるということに気づいた。
- ・信徒、司祭、修道者が共に集まることは広い視野を持つ（多数）
- ・召命の意味。召命の恵みを確認できた。みんな召命にまじめに生きていることがわかった。（複数）
- ・グループで分かち合えたこと。修道会も社会の影響を受けており召命の育成に苦労していることが解った。（複数）
- ・召命の活動に元気を頂いた。
- ・基調講演の2人の司教様の話しから、多くのことを考えさせられた。動かなければと言う力をうけた。
- ・召命の妨げを共通理解出来たことはよかった。修道会は地域に向けて開くことができ確認できた。
- ・同じグループになった方々が、同時期に合同修練や大学の神学部、また養成グループでの学びや祈りを共にした人であり、これから先修道会を超えて協力しあうことが出来るという希望が持てた。
- ・今の困難をチャンスとして捉え、前向きに進みたいと思った。
- ・他の修道会の実践の中からヒントを受けた。その招きに足を運びたいと思った。
- ・祈りの重要性を自覚し、召命の原点に立ち帰れた。
- ・キリストと教会を愛する、愛したいという思いに燃えている。キリストに出会う喜びを伝えたい。
- ・他の修道会の方々と関わり、様々な情報を得る機会となった。
- ・基調講演、分かち合いを通して、何を大切にすべきかを再確認できた。
- ・同じ課題を他の修道会も持ち、積極的に取り組んでいるということを確認できた。
- ・修道会を中心にしたグループだったので、心が開き易かった。私、私の会という考えから、みんなと共に変わった感じがうれしかった。
- ・溝部司教の投げかけの中で「キリシタン時代の組」を現代に置き換える。霊的成熟を目指す活動という言葉が響いた。
- ・基調講演、分かち合いから得るものは大きかった。修道院に籠もりがちな私にとって、このような体験は実り多いものであった。
- ・若者のあり方、生き方をそのまま認め、受け入れることの重要性を学んだ。今までは「修道者であるためにはこうであるべき」という考えであった。
- ・社会、教会で子供を増やし、女性が子供を安心して生み育てる時間と場が保証されるべき。
- ・溝部司教の働きに感動した。若者のために働ける喜びと感謝されているお姿に感謝。（複数）
- ・望洋庵の試みにおいて、一人でもやる気になれば、これほど出来ることを知った。
- ・根底には「祈り」「キリストとの出会い」があることを確認した。
- ・池長大司教の講話で、現代の社会の片寄った認識を永続的な真理であるカトリックの認識に変えていかなければならないというところが、心に強く残った。
- ・分かち合いを通して、共感とヒントをたくさん得た。（複数）
- ・召命のためには多くの課題があることを知った。
- ・基調講演で現状と向かうべき方向が見えてきた。
- ・グループの分かち合いに信徒の方が入っていたのはよかった。家庭についての考えを得た。
- ・養成担当者7年目にしてこのような研修に与り、召命に関する考えが広がった。自分の会のみ固執せず、広く他の修道会の召命への取り組みを知れたのはよかった。
- ・いろいろなアイデアを頂いたが、今後、私個人がどのような実践的働きが出来るかが課題である。

- ・溝部司教の講演が参考になった。司教様の若者を愛する心、それに惹かれて集まってくる若者、年齢ではないと思う。加齢と共に内向きになっていく姉妹たちには大きな反省になる。
- ・自分とは違う視点、とらえ方などを通して多くの気づきを得た。知らなかった現実・現状を知ることができた。
- ・信徒と交わることで、信徒から「もっと積極的に自分たちの特徴を若者に紹介してほしい」といわれたことに勇気づけられた。
- ・召命担当者のみが頑張るのではなく、一人一人の責任である。
- ・一日だけの参加でしたが、現実の中で召命を考えていく重要性を感じた。
- ・昔のように在ることに固執せず、これからの召命のあり方を模索する必要性を感じた。

②召命の土壌とその構築について思うことは何ですか（強く言いたいこと、言い残したことなど）

- ・召命は一人一人に固有なこと
- ・神の声を聞き分ける手助け（霊的同伴者）が必要
- ・祈りのある教会、共同体
- ・現在ある土壌に肥料を与え続けることが必要だと思った。
- ・若い人を育てる場を、教会に作る必要がある。
- ・一人一人を大切な存在として認め、受け入れることは大切
- ・池長大司教の講演にあった家庭に関する事柄を深めたい。ただ外国から志願者を連れてくるのではなく、日本にいる外国籍、信者家庭の中から召命を育てることも重要。人身売買にならないように、～人に関係なく、また日本という島国にならないで、全て神から招かれていることを信じたい。
- ・家庭を育てるという視点を大切にしないと土壌は育たない。
- ・キリストとの生きた関わりのない形骸化した信仰生活では召命は生まれない。
- ・教会が人間の本来の姿、生きる目的について常に問いかけ、新しいチャレンジに直面していく姿勢を保つことが召命を生むのではないか
- ・リラックスして喜びを分かち合うことが大切と思う。
- ・自分がまず輝く土俵になること。
- ・話しかけられる存在であること。
- ・認識、価値観の大転換がないと教会は動かない。小さな関わりの中で、社会の価値観に疑問を抱かせることが必要。
- ・キリストとのつながりを深める。私たちが動かしている方を伝えていく使命がある。
- ・自分たちの共同体が、他者の魅力になることが最重要。
- ・若い人だけでなく、関わりを大切にしたい。その関わりから召命が生まれると思う。
- ・霊性を深め、祈りと学びを深め、愛の実践に取り組むことが何より大切である。
- ・子育て中の親にねぎらいの言葉をかけようと思った。
- ・召命活動を行う自分がまず、回心し、喜びと信仰をもって教会のために働く決意、覚悟をすること。
- ・若者の集える環境を超修道会で東京方面に作ることを提案します。
- ・小さな輪を広げていく。
- ・微笑みの使徒職を実践していく。信仰の喜びと気づきを与える。
- ・神体験、信仰体験、キリスト体験が信仰の土壌の肥やしになるということ。召命の土壌はあらゆる場があり、その識別が重要。自分がその場に一步踏み出す必要がある。
- ・召命の土壌は一人一人の心である。
- ・信仰生活の実践と充実・家庭での祈りによって幼い心に種は蒔かれ成長していく。
- ・教会には宗教的な厳しさが欠けている・
- ・キリストとの出会い。祈りの体験ということを揺るがしては成らないと感じた。
- ・イベントも刺激になるが、生活に染みこむようなものでないと、人間の力を越えた働きを受け止めることは難しい。
- ・祈りを大切にする共同体を作り、キリストと出会う喜びを人々に証し出来るとき、それが土壌となる。
- ・言葉でいうことは簡単だが、実際には難しいことを自覚し、努力している姿を見せることも大切。
- ・池長大司教が述べた「永続的真理」を自分の体験を使って伝えていくことから始めようと思った。
- ・ずっと思っていたことが今回の話しの中にあった。
- ・いのり・同伴・識別・出会い・お互いを知り合うことが大切。**(複数)**
- ・一人一人の神体験が不可欠

- ・キリスト者の再教育・信仰、神を頭で考えている部分が多い。学びも大切であるが、実践を伴う信仰者であることが先。
- ・自分が生かされている喜びを体験することが必要。
- ・キリシタン時代のように深い信仰とそれを支える教育が必要。
- ・教会学校の充実。子供が教会に来たいと思う教会作り。司祭、修道者が、子供の目に「憧れ」「希望のしるし」となるように願う。
- ・ダブルの人たちの信仰養成にも力を入れる。
- ・宣教活動を活発化させる。
- ・認識の大逆転の方法、方向を深めるべき。
- ・召命の土壌の構築の為には、自分が肥やしになる・自分が死んで他人を生かすものとなる。聖霊が土壌の中に行き渡るように、常に掘り起こし続けること。
- ・教会は若者、弱者たちの居場所を造るべき。教会が本来の役割を果たしているなら、そこに人は集まるはず。**(複数)**
- ・司祭不足、後継者不足ゆえに召命をと叫んでも、誰もついてこない。
- ・教会、修道会が開かれ、入りやすいものであること。若者と共に祈る場を作ること。
- ・キリストに呼ばれ、キリストに関わる喜びを分かち合い、祈りの模範を生きること。
- ・世の力に抵抗していかねばならないことを学んだ。
- ・信徒が生きている現実の世界に、修道者としてもっと働きかけることが重要。
- ・修道共同体のあり方・高齢者が輝ける場づくりが大きな課題
- ・小教区共同体がほっとする場となることが必要。
- ・人と人のつながり、祈ることの大切さを確認した。
- ・自分に与えられた使命を喜びを持って取り組んでいくことが召命の土壌構築に繋がる。
- ・超修道会で、「望洋庵」のような施設を、東京の空いている修道院を使って、創立することが大切であろう。**(複数)**
- ・「認識の大逆転」こそ重要である。どうしたらよいのか。
- ・家庭教育が重要。両親が自分の信仰をしっかりと生きること、子供はその後ろ姿から学ぶ。信仰の芽は小さいときから育てていくべき。**(複数)**
- ・家庭での信仰のあり方が子供の成長に大きく影響する。
- ・自分がいかされている喜びを感謝し、身近な人と分かち合いたい。
- ・キリストとの容易なる出会いの場、つまり気軽に立ち寄れる「祈りの時と場」を作りたい。
- ・家庭で祈ることが大切。子供の頃の影響は大きい。
- ・神の招きに生きる修道者の喜びと笑顔が召命を生み出す。
- ・キリストの価値観を自分の考えや思いを通して具体的に表現する。

③召命の活性化のために、自分たちが、今早急に取り組むべき課題はなんですか。

- ・神の呼びかけに気づき応えるために、本気になって、自分を捧げること。
- ・創造性を持ち、若い人たちと丁寧に関わること。
- ・若い人が自由な思いで集える場を作る為の協力体制をどう作るのか
- ・同伴者としての意識、自覚を持ち、そのことのために学ぶことも必要、祈りの人となること。
- ・高齢の姉妹たちのお世話だけに翻弄されることなく、召命活性化のためにも具体的に行動をおこす必要がある。
- ・自分自身の召命に感謝し喜びをもって生き、預言する証し人になる。これが奉獻者の勤め。**(複数)**
- ・諸イベントを通して、若者の心、生き方を刺激するタイミングを知る。
- ・信仰の喜び、教会を愛すること、福音宣教の喜び。
- ・内向きをやめ外向きであること。地域、苦しむ人、人々の渇きに共にあろうと出かける姿勢を持つ人であること。人間嫌いが司祭や修道者になってはならない。司祭、修道者の養成の問題。
- ・若者に限らず、身近に出会う人と召命について語り合い、その分かち合いの中で召命ある人と出会えるのではないかな。
- ・開かれた修道院、開かれた存在になること。
- ・まず私たちが「喜び」のうちに生きること **(複数)**
- ・信仰を伝える場、時間を工夫してあちこちに作り、その人材を養成するべき。
- ・それぞれが呼ばれている生き方を深め、喜びをもって示していくこと。
- ・イエスに出会い、そのイエスを伝えるという召命活動の大切さを認識する共同体

- ・自分たちの霊性を深め、パンフレットなどを作って、修道会を知らせること。
- ・会を超えて祈りの集い、黙想会などを定期的に行う。
- ・祈り合うこと、協力しあうこと（司祭、修道者、信徒）。
- ・高齢化対策ばかりにエネルギーと財力を使うのではなく、召命活性化にも力を注ぐべき。
- ・修道会を越えて協働することが望ましい。
- ・自分がいる共同体に、定期的に外から人を招き、共に祈り、分かち合いたい。
- ・人任せではなく目覚め、会員をも目覚めさせること。
- ・キリストのサークルを教区、修道会を越えて作っていく。
- ・祈りの集いのあり方を変えていくべきものは変えていく。
- ・勝目の土壌となる場は多くあるので、その土壌を構築していくべき。
- ・家庭での祈りを大切にす。
- ・神の言葉を通して霊性を深め、祈り、分かち合いの場をつくること。;
- ・若者との出会いの場をつくる・壁があれば取り払い、大切なものは妥協することなく伝える（**複数**）。
- ・上から目線ではなく、共に歩む姿勢。
- ・召命担当者が共に協力しあい、若者をまきこんで行けるようになればよい。
- ・幅広い信徒の養成も大切。
- ・いま置かれた場所、環境で出来ることを行う。
- ・召命のために若者が企画することの雰囲気作りに積極的に協力したい。
- ・まず自分が変わる。自分が喜んで生きる。奉獻されたものとしての自覚をしっかりとつ。
- ・忙しすぎる、疲れている姿をさらけ出すべきではない。
- ・祈りを大切にす。
- ・人との交わりを大切にす。
- ・命を大切にす生き方を選び取っていく。
- ・若者に同伴できるように学び、教育されること。
- ・共同体が明るく楽しいこと。
- ・高齢になっても、社会、教会に奉仕し、生き甲斐を持つこと。高齢であっても神の愛をあかすこと。
- ・家庭の福音化、信徒の召命、司祭・修道者のための祈り、ゆとりある生き方。司祭・修道者の魅力。
- ・居心地のよい場を作り、青年に提供し、同じレベルで語り合い、共に祈ること。キリストの愛に触れ、キリストとの親しい交わりに至るまで、寄り添うことが大切。
- ・真に生きる意味を若者に伝える。
- ・カトリック学校、福祉施設はもっと祈りの雰囲気、キリストの香りを出すべき。
- ・カトリック人口は僅かである。カトリック家庭から召命は望めない。むしろ受洗者たちの中から召命が生まれるように工夫がいる。
- ・共同体の中に生きる人が自分の霊的喜びを分かち合う機会を持つ。
- ・司祭、修道者が社会に大いなる影響を与えていることを自覚を持つこと。
- ・ほっとして憩えるような小教区共同体作りが急務である。
- ・神の恵みに生かされる喜びが具体的に表れるように
- ・情報を発信していくこと、若者に直接に関わること。
- ・召命を育むために、今から真剣に祈りたい。
- ・若者との関わりを持つ手立てを考えること。
- ・一人一人の回心、自分も何かができるという自信を持つこと。車いすになっても笑顔で接するほどの深みを持てる者でありたい。まずは自分を知り回心すること。
- ・つかれた人、悩み苦しむ人が、共に話し、分かち合える場を教会、修道会、地域の中につくる（**複数**）。
- ・若者が集える場を作る。社会の中で魅力ある教会、修道会を作る。（**複数**）
- ・教会の中で子供に対して、大人に対して信仰教育をしていく必要がある。

④カトリック召命チームに望むことがありますか

- ・このチームの存在、働きを知りません。教えて下さい。
- ・地味な存在だと思う。その働きがもっと知られるべき。
- ・若い人が集える場作りのための呼びかけなどをして欲しい。
- ・前回と変わらない分かち合いになった。皆で真剣に祈る姿勢が必要。何か一つ共通して実行することを決めたらよい。

- ・若者の生の声に近い人を講師として迎える。一日に短縮・集中するプログラムを考えてはどうか。
- ・日頃考えていること、感じていることを、とにかく言葉にして、そこから重要なことを見つけていく。
- ・お疲れ様です。
- ・このような集いを通して、日本の教会が一つになって、召命に取り組む計画を続けて欲しい。
- ・ホームページで修道会の紹介が一覧で見られること。修道会それぞれのHPはあるけれど、一覧で見ることことはできない。
- ・共に出会い、考える機会を準備して下さることに感謝します。
- ・日本のユースデイみたいなものを企画して頂けるとありがたい(2人)
- ・関西、九州の方でも行えないでしょうか。(複数) その地域に人が多く参加できるから。
- ・毎年の企画に感謝して参加させて頂いています。
- ・準備は大変だと思いますが、分かち合いを通して、思いを共有するだけでも支えを感じるので、是非、この活動を続けて欲しい。(多数)
- ・東京だけでなく、各地区での集まりが持てたらいいと思う。(複数)
- ・このようなお知らせが各修道院に来ないけれど、多くの人に与って欲しいと思う。
- ・本部修道院のみならず支部修道院や、地方にも送って欲しい。
- ・班長の役割を書いた方がよい。
- ・分かち合いの班が決まっていて良かった。発表者も決まっていると遠慮の固まりにならないのでいいかも。
- ・東京ドームでワールドユースデイみたいなことをする。
- ・今年は「奉獻生活」の年と定められているので、召命チームのリードの元に、教皇文書を考え、祈り、実践していきたい。
- ・各教会、各修道会と具体的に話し合える接点を作って欲しい。
- ・教会で若者を育てている若い司祭の話聞いてみたい。
- ・同伴ができる召命担当者の養成を企画して下さい。
- ・今後、2年に一度はこのような集いを持って頂きたい。
- ・地方にいたので、召命活動に関する情報が少ない。召命に関する書籍、参考になるものを紹介して欲しい。
- ・蔭で種々の準備が成されたと思います。このような集いに参加できて感謝である。
- ・日本の教会、日本の社会などの客観的なデータ、資料などを、みんなで勉強したい。この方面の専門家がいないのではないかな。
- ・青年たちにアンケートをとって、青年たちの生の声を吸い上げて欲しい。
- ・この先の取り組みは難しいはず。多くの若い方々の側からの話を聞きたい。
- ・集いのあり方も工夫して欲しい。
- ・教区事の取り組みなど、具体的な内容はどうか。
- ・基調講演ではなくワークショップ・グループダイナミクスを学び合うため。人材発掘・育成のスキルを会得するため。
- ・神学院の養成者が、何を大切にしながら、司祭養成に取り組んでいるのかを聞きたい。
- ・全国レベルでの集いは2日半がよい。グループ討論で盛り上がったところで時間切れは悲しい。
- ・WYDの参加者を交えての集いを企画して欲しい。

⑤その他(自由にお書き下さい)

- ・分かち合いが聞こえにくい時があった。となりがうるさい？
- ・神学生や信徒の参加があることは嬉しい。
- ・分かち合いの中で批判的(否定的)な意見が出てくるのは寂しかった。Positiveに歩きたいです。
- ・分かち合いの時間が足りなく、もっと深く分かち合えたらと思いました。
- ・一日のスケジュールがハードであったが、充実していた。
- ・1日目のスケジュールはぎっしりだった。もう少し余裕が欲しい。場所などは使いやすく、いろいろな配慮を感謝。
- ・一日の集いはどうですか。分かち合いも最後に一度だけ。けれど遠くから来る人には2日が必要かも。
- ・日程、時間も丁度良かった。チームの皆さんに感謝しています。
- ・日本の社会は大きく変化している。これまで通りの司祭、修道者のあり方、働き方、また養成の仕方がこのままで続いて行くと考えないで、現状と将来を展望し、聖霊の導きを願いながら、柔軟にこたえていけることを願う。

- ・ 具体的実践例、成功例があれば分かち合っ欲しい。
- ・ 1日目を基調講演の日とし、2日目はパネルディスカッションにしても良かったかも。
- ・ 「女子修道会案内」「男子修道会案内」の本を作るといいと思います。

*各自のつとめ

- ・ 考えたことを、祈りの内に深め..その具体化のプロセスに進むこと
- ・ 何をどうするかは、自分で考え、実行すること..人が生きる場、環境、状況は違うので..これができて始めて、参加した意味がでるのではないか？
- ・ 何を「どうする」のか..個人の力量で具体化すべきこと..此処まで求めてはいけない。